

## 「風土記の丘、夏休み大作戦」

和歌山県立紀伊風土記の丘では、夏休みに企画展や体験講座、モノづくり体験、展示室クイズ、ハニワパズルなどのイベントを多数用意して皆様のお越しをお待ちしております。名付けて紀伊風土記の丘夏休み大作戦です。

まず、その第1にあるのが企画展「学校にあるたからものⅡ」です。この展示は今回で2回目となり、7月21日から9月2日までの開催です。県下の小学校、中学校、高等学校には教材として集められてきた、昔の道具など多くの資料があります。それらは昔の暮らしを知る手掛かりとして地域の人たちの協力で集められ、大切に保管され、利用されてきたものばかりです。

今回も新たに、今から1500年以前の古墳時代の焼き物である須恵器やハニワなどの考古資料多数が和歌山県立日高高等学校で見つかっています。また、那智勝浦町立下里小学校の後藤新平の掛け軸「自治三訣」は、大正14年（1925）5月26日に同校で講演をした際に記念として贈られたものとされています。後藤は岩手県出身で、台湾総督府民生府長官、内務相、東京市長などを務めた人物で、とくに大正12年（1923）発生の関東大震災後、リーダーシップを発揮して東京都の復興計画を推進した事でも知られる人物です。そのほか新宮市立三輪崎小学校ではクジラ漁に用いられた漁具などの民俗資料が収蔵されていました。

この展示では各学校で「とっておかれたたからもの」を「とっておきのたからもの」として広く紹介しようとするものです。

この展示の期間中、「こどもミュージアムトーク」として7月21日、8月18日の両日に企画展の解説を行います。また8月19日には担当学芸員によって「展示講座」もあります。次に夏休みモノづくり体験として8月4日、5日に「ハニワ」づくり体験、8月11日、12日には「勾玉」づくり体験があります。いずれも10時と13時30分開始で、どなたでも参加できます。各回100名ずつ先着順に受け付けます。入館料190円と材料費（ハニワ：350円、勾玉：300円）が必要となりますのでご注意ください。

このほか、資料館の入館者を対象とした毎年恒例の展示室クイズを実施します。このクイズは展示に関係する簡単な内容のもので、7月21日から9月2日まで行い、全問正解者には缶バッジをプレゼントします。なお、缶バッジのデザインは入れ替えがありますので、楽しみにしてください。

立体はにわパズルは7月24日から8月31日までの平日限定の企画です。資料館ロビーにて円筒埴輪や鳥形はにわ等、岩橋千塚古墳群で出土したハニワの復元を体験できます。考古学者になったつもりでぜひチャレンジしてください！

夏休みの自由研究のヒントを風土記の丘でさがしてみませんか？さらに夏休みの宿題をまとめて、社会科の課題として「チャレンジ！ジュニア考古学」に応募してみませんか？応募作品は、資料館で展示し、受賞作品は表彰式と研究発表会を行います。

和歌山県内の小学校、中学校生を対象とし、課題は県内の考古学や歴史学に関する研究

成果で、未発表のものに限らせていただきます。募集部門は個人研究部門（小学校、中学校）、団体研究部門（学校、クラブ、クラス、など）です。応募期間は9月1日から11月11日までです。各部門には最優秀賞、優秀賞、奨励賞のほか応募者全員に記念品を贈呈します。詳しくは風土記の丘ホームページをご覧ください。

以上、風土記の丘夏休み大作戦の内容でした。皆様のご来館をお待ちしております。